

◆桜で有名な青森・弘前城天守の曳家について！

特集でも紹介されている、全国的に有名な桜の観光地 青森県は弘前城の天守の曳家を取り上げます。

曳家は、本丸の石垣で外側に膨らむ「はらみ」がみられたことから、その修復の為、計画されました。曳家工事は、(株)西村組(弘前市)により、2015年8月開始！天守をジャッキアップし、約10センチ持ち上げる「地切式」を開催。弘前城天守は、明治30年(1897)にも弘前市の大工・堀江佐吉により西側に曳家されており、約100年ぶりに、高さ14.4m、総重量約400tの3層の天守が、約3ヶ月で移動。



市民参加の曳家体験イベントが、2015年シルバーウィーク期間に行われました。人力でお城を引くという特別な体験でした。

「曳家(ひきや)」とは、建物や橋、重量物等の移動工事の事です。歴史的な建築物や文化財等をそのままの姿で移動して保存する時に活躍します。近年はハイテク技術も活用し、より安全に施工されています。

弘前城天守が元の位置に戻るのは、2026年以降になるとのこと。

弘前城 <https://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>



サクラの後は様々な春の花が盛りとなるが、足元の草も小さな花をつけ捨てたい。中でもネジバナがとりわけ可憐である。2~3mm程度の小さな花だがラン目ラン科、これでもれっきとした蘭の仲間。菌根菌との共生関係も強い。コハナバチや小形の蝶等が吸蜜している。しゅとした茎に名前のとおりせん状にねじられて小さなピンクの花序が並び、近年は里山マニアを中心にファンも増えた。

今から20年以上前の話になる… 当時は里山ブームのはしりの時期であったが、雑木林の春の林床植物はキンランやギンラン等の貴重種が人気で、ネジバナはマニア以外にはそれほど注目されてはいなかったし、当然の様に一斉除草で刈り取られたりもしていた。

当時の私は、某特殊法人の中で



多摩NTの造園の仕事をしていて、お掃除のおばちゃん達と仲が良く、仕事をさぼってしゅちゅうだべっていた。おばちゃん達は屋外の芝地の管理も担っていて、ふと見ると丁寧にネジバナを残して草を刈っていた。青々と綺麗に刈り揃えられた芝地のあちこちに、りと点在するネジバナが何とも可愛らしく美しかった。

「おばちゃん！このネジバナわざわざ刈残したわけ。このまわりだけ『手抜き除草』してるんでしょ！」と私は覚えてたので造園管理用語を用いて賞賛したつもりだった…

「やだよお。てぬぎじゃなくて、手間がかかってんの！」といなされた。「でもほら、可愛いから、手間くっても残してんのさ…」

春のそよ風に吹かれ、小さなネジバナが笑った様に小さく揺れた…

(株)UR リンテージ 高橋和嗣

気になるお店

今回はCLA賛助会員のプランターメーカー株式会社トーションコーポレーションのクラフトビールのお店をご紹介します。えっ!?プランター!ビール?どっち???

FIVE TREES



店の外構と内部をつなぐイングリッシュガーデンをベースにした緑豊かな植栽デザイン。セレクトショップと見まごうTシャツやキャップ等のオリジナルグッズの展開。そしてタンクの仕込みから製造しているクラフトビールは、フルーティで初心者も飲みやすい度数4%の「SessionIPA」から、パンチの効いた8%の「DoubleIPA」まで3タイプがライン

ナップ。これ、みんなプランターメーカーさんの本社ビルの1Fの話なんです。

「パートナー会社との連携交流」「地元五本木地域の人々との密着」「社員のモチベーションUPな環境づくり」という3方向で人と人のつながりを大事にしたいとの想いで、令和2年に新オープン!したとのこと。地元のお客さんの気軽な一杯や、様々なプロの方々の硬い商談から自由闊達なブレインストーミングまで、アイデアが生まれ発信する情報発信基地として大評判です。



住所 ● 東京都目黒区中央町 2-35-13
電話 ● 03-3715-6082
営業日 ● 火曜~日曜 月曜休み
交通 ● 東急東横線学芸大学駅徒歩5分
H.P ● <https://fivetrees.tokyo/>



編集後記

発行 30回の「記念号」を経て、新しいスタートを切りました。本号では「桜」をテーマに取り上げました。紙面は桜で満開、まるで新学期です。幾度と新学期を経験してきましたが、桜を見るとまた、新たな気持ちでスタート切れるようで嬉しい気持ちです。桜に感謝です。(加藤)

みどりの手帖 Vol. 31 2023年3月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 光益 尚登
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 CLA 関東支部広報委員会 高橋 和嗣、加藤 愛、泉地 善雄、中尾 慶命、森田 緑

表紙写真 国営武蔵丘陵森林公園 展望広場 (撮影:小林正樹)

小窓写真 株式会社ニチレイフーズ HP ほほえみごはん (桜餅の作り方もご参考に!)

<https://www.nichireifoods.co.jp/media/11726/>

※転載・転用を禁じます。



CLA 関東支部情報誌

Vol.31 2023.3

みどりの手帖



特集

ランドスケープのしごと「桜とランドスケープ」
和田博幸さん/武林晃司さん/橋場真紀子さん

CLAの技術・事例特集
関東支部の活動紹介

「第3回公園樹木長寿命化技術研究特別委員会」が開催されました。

CLA 関東支部ではR3年度より造園のコア技術である「緑の育成に関する技術開発」に取り組んでいます。その一環として、CLA 本部に設置された「公園樹木長寿命化技術研究特別委員会」及びその「ワーキングチーム」の支援を行っております。

さる12月16日(金)には、第3回同委員会が開催されました。「ワーキングチーム」より『公園樹木長寿命化技術指針(案)』の部分素案が叩き台として提出され活発な議論がなされました。



リレー紹介! RLAなヒトビト



山崎 正代 Yamasaki Masayo

(株)クロス・ポイント 代表取締役。兵庫県芦屋市出身。日本大学卒業後、(株)熊谷組にて開発企画、公園設計などを経験し、2010年(株)クロス・ポイントを設立。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、技術士(都市及び地方計画)。2011年丸池公園第二期設計グッドデザイン賞受賞。東京都立大学総合研究所応用生態システム研究センター客員研究員。

建築学科出身の私は、まだ経験が浅い時期にコンサルタント会社に配属されました。RLAは仕事に必要な資格の一つだったので取得しようと考えたまでは良かったのですが、周りに造園系技術者がいなくて苦労しました。そんなある日、試験対策セミナーがあることを知り、大いなる期待を持って参加することにしました。1日限りのセミナーでしたが、丁寧な講義と、講師や他の参加者との会話に勇気づけられ、無事に試験を突破することが出来たのです。

その後、同じような境遇の受験者をサポートしたいと思い、2014年から、試験対策セミナーの運営に携わっています。近年、RLAは造園だけでなく、都市計画、建築、土木など環境や空間デザインなど多種多様な分野の技術者が受験するようになってきました。この傾向を講師や運営メンバーと共有し、セミナーの内容をアップデートしながら推進しています。また、セミナーを通じて知り合った方々と仕事で協働する機会もあり、資格取得で得たネットワークは、かけがえのないものです。

ランドスケープのしごと：桜とランドスケープ

特集



「ポストソメイヨシノはソメイヨシノ自身か…!?」

CLA 関東支部では、R3 年度より造園のコア技術である植栽技術の総合化及び高度化を目指して「緑の育成に関する技術開発」に取り組んできました。その一貫として「みどりの手帖」でも、公園やオープンスペースのメインの植栽樹木であると共に昨今その管理面での課題も多く何かと話題になるサクラに焦点をあてます。豊富な樹木医としての知見を持ち、サクラに関する実務のスペシャリストでもある御三方からお話を伺いました。その一部をご紹介します。



和田 博幸 Hiroyuki Wada

和田博幸さん

1961 年生まれ、群馬県出身。東京農業大学農学部農芸化学科卒業。公益財団法人日本花の会の特任研究員、一般社団法人日本樹木医学会理事・副会長、樹木医学会理事・副会長、樹木医として全国の桜の名所づくりや花のまちづくり等に取り組んでいる。2017 年 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演。出演時に「令和の花咲おじさん」と呼ばれる。

●令和の花咲おじさん 和田氏とサクラとの関わり

「日本花の会とサクラ」

2020 年に 37 年勤務した（公財）日本花の会を退職し、現在はフリーランスで桜の名所づくり、花のまちづくり等、花や緑化関連の仕事を行っています。

日本花の会は 1962 年に創立し、創立者の河合良成（当

時のコマツ社長）は大変な花好きで、「花の楽しみや喜びを共有し、いらかでも人々の心を和らげたい」という設立趣旨のもと、地域の団体にサクラなどの苗木を配布して花の名所づくりに取り組んでいました。そこに就職したのがサクラとの出会いとなりました。

ただ苗木を配布するだけでは名所はできないので、それをフォローする体制をつくることとなり、わたしは研究員として関わり始めました。1995 年ごろからは花の中でも最もインパクトの大きいサクラに特化して取り組んできました。

●「桜の名所づくり」に関わる多岐にわたる取り組み

自治体から桜の名所をつくりたいという相談があり、業務としても依頼がくるようになり、名所づくりには様々な方との協力が必要なので、地域の方や行政、造園施工会社、設計コンサルタント等とも協力しながら進めてきました。

地域・場所にあったサクラの種類・見せ方の提案や、既にある桜の名所の具体的再生方法の提案をしています。その他、名所のコンセプトづくりや、どのような名所をつくるのかをテーマとした地域の方々とのワークショップ等、多岐に渡って取り組んできました。

●行き届かない管理から生まれた“ソメイヨシノの寿命 60 年説”

「日本人に愛される“サクラ”」



樹勢回復した山高神代桜（北中市）



隅田公園サクラのボランティアの方々と

日本花の会
<https://www.hananokai.or.jp/>



サクラは、歌や食べ物の名前にもよく取り入れられ、日本の文化そのものとなっています。特にソメイヨシノは全国で見られる身近な存在で、成長が早く花が一斉に咲く見事さがあることから、サクラを代表する品種の 1 つとなっています。

「適切な管理により、ポストソメイヨシノはソメイヨシノ自身」

桜の名所でもよく植栽されているソメイヨシノですが、植樹後年数が経ち、昔ほどきれいに咲かなくなったと地域の方からお声をいただくこともあり、巷では“ソメイヨシノの寿命 60 年説”が出回っていますが、実際にはそのようなことはありません。

一般的には樹勢のピークは 30～40 年程度ですが、ソメイヨシノはとても自己再生力が強いので、その後の施肥や衰退した枝の剪定等の適切な管理がしっかりとできれば、ずっと長く生きることできます。

ただし、てんぐ巢病にかかりやすい点は弱点です。また、切除した太枝からの腐朽が早いという弱点もありますが、これらを想定の上で適正な管理によって克服はできます。

「ソメイヨシノの弱点を補う品種」

日本花の会では、ソメイヨシノの弱点を補う品種の普及も積極的に進めてきました。

てんぐ巢病への耐性があり、ソメイヨシノよりひと回り小型で管理がしやすい「ジンダイアケボノ」や、長命なエドヒガン系で、温暖化の影響で花期が早まっているソメイヨシノに代わり、地域によっては花の見頃を入学式のシーズン 4 月前半に合わせられる「マイヒメ」などがあります。



生物学的にも強いジンダイアケボノ



八重桜で花着きがよく、見応えのあるマイヒメ

●美しい桜の名所をつくるために

「計画的・段階的な管理の実施」

昔は、植栽したサクラについて“土壤改良”、“樹勢回復”という概念すらなかったように思いますが、今ではそれらもいぶん浸透してきたように思います。

これらに加え、美しい桜の名所をつくるためには、管理も単年度ではなく計画的・段階的に時間をかけてやっていくことがとても大切です。

例えば、剪定を行う前の年には土壤改良を行い、樹木の元気を取り戻してあげたほうがより高い樹勢回復の効果が見込めますし、その前には現状の土壤調査を行うべきです。その他、計画地周辺のサクラの植生調査を実施しておけば、その地域でのサクラの開花時期を踏まえた植栽計画につなげることもできます。

また、植栽後 1 年の間は植物の生育上重要な期間なので、この間の管理を十分に実施できるような体制・仕組みづくりも大変重要です。

「サクラ（みどり）に関するリテラシーの向上」

桜の名所づくりに携わる中で、サクラを始めとしたみどりについて市民の方々と対等にコミュニケーションをしていく必要性がでてきていると感じています。

市民の方々の特に興味関心が大きいサクラに関わる専門知識を身に付けたり、樹木医や植栽基盤診断士等の植物の専門家と積極的にコラボレーションをする等により、みどりに関するリテラシーを向上させていくことが、これからはより重要になると考えています。

桜の名所づくりの第一歩として、コンサルタントのみならず多くの方にサクラを始めとしたみどりに対する興味関心・問題意識を持っていただく機会を創出していきたくと思っています。

「舞鶴公園におけるサクラ管理と市民参加の取り組み」

（一社）福岡県樹木医会 樹木医：武林晃司さん

福岡市の中心部に位置する総合公園：舞鶴公園には、1000 本に及ぶ数種のサクラが植えられています。樹齢を重ね樹勢が下降気味となり、土壤改良や腐朽部の治療を行い樹勢の回復を行ってきました。今後、更なる魅力度アップを図るため、サクラの花に着目した樹勢回復の検討を続けています。

一本の樹が咲かせる花の量は、名所と呼ばれるのに最も重要な要素と捉え、樹冠先端の小枝につくつぼみの数、花数、枝の長さや幹の健康度、生育環境による花つきの影響を調査しています。調査の結果から活性化の処置として、日照・土壤環境の改善、再生と更新のための剪定、腐朽対策などを実施しています。今後は「きれいな花」から「感動を与える花」を目指し、継続的な調査や維持管理を継続していきます。また、サクラを守り育てるためには多くの人々の関わりが必要と考え、様々なイベントを通じて市民に協働と理解を求めています。



福岡県樹木医会HP(活動実績)
<http://f-jumokui.com/05.html>



枝と花の成長調査



前年の枝の先端位置

樹木医とは

1991（平成 3）年に創設された民間の認定資格です。樹木の調査・研究、診断・治療、設計監理などを通して、樹木の保護・育成・管理や、落枝や倒木等による人的・物損被害の抑制、後継樹の育成、樹木に関する知識の普及・指導などを行う専門家です。
<http://www.jpgreen.or.jp/treedoctor/index.html#hajimeni>



「弘前公園におけるサクラの管理」

弘前市都市整備部公園緑地課 管理係主幹 チーム桜守・樹木医：橋場真紀子さん

昭和 30 年代から続く管理体制と技術により、弘前公園は、日本屈指の桜の名所となっています。見ごたえあるサクラを支える技術は「弘前方式」によるものですが、その技術継承問題が今、課題となっています。

そこで我々は「チーム桜守」を結成し、早期かつ確実な方法で、技術の継承と人材育成に取り組んでいます。毎年剪定、施肥、薬剤散布、土壤改良を実施し、「染井吉野」の長寿命化を実現させています。樹齢 100 年を超えた「染井吉野」でも、木が覆い隠されてしまうほど花を咲かせ、圧倒的な花の量感で人々を魅了しています。

また、いろいろな世代の方に弘前ならではのサクラの魅力を伝えたく、弘前公園発祥の八重桜「弘前雪明かり」の発信や SNS 映えるスポット『さくらのハート』の提案をしています。



弘前市HP
(弘前さくらまつり2023年4月21日～5月5日)
<https://www.city.hirosaki.aomori.jp/>



樹齢 140 年弘前公園最長寿のソメイヨシノ (1882 年植栽)



和田さんのお話は CLA 関東支部広報委員会によるインタビューとして、さる 1 月 10 日にお話をお聞きしました。

また、武林さんと橋場さんのお話については、昨年 11 月 8 日に CLA 関東支部で開催した特別セミナー「桜の樹木学」での講演をもとにしたものです。なお、和田さんのインタビューの全体内容は CLA 関東支部 Web サイトで公開の予定です。そちらも併せてご覧ください。
https://cla-kanto.jp/?page_id=9

